

学園施設をご利用の皆様

「人と人 人とみどりが響きあい
笑顔あふれる 東村山」

東村山むさしの 環境憲章

ご存じ、市のキャッチコピー。

新宿まで小一時間。これほどまでに緑の多い街。
水々の間に人がいる。そんな温かみのある街。

市民、事業者、訪問者。ひとりひとりが、その言葉の大切さを胸に未来に歩まなければ、なしえることは、できません。

日々、子ども達だけでなく、ご家族、近隣の皆様の目にも触れる環境。その環境こそ、「素敵・綺麗・美しい」姿であるからこそ、人々の心をも美しいものとし、子どもの記憶にも、高き感性や価値観、そして、誇りまでもが育まれていきます。

今般完成した駐輪場をはじめ、街並みの景観にも配慮した駐車場や建物、創作されてきた園環境すべては、関係ご家族のご協力、近隣皆様のご理解にも支えられ、継承されています。

全国にいる子ども達は、街角でボランティアをし、ゴミ拾いもしています。
草花を大切に、他人を大切に、ということを大切に、学んでいます。

そして、園スタッフにも、地域に方々はもちろん、たくさんの元教員や保護者、卒園児が戻ってきて下さり、もはやそれは仕事を越えた園や地域への愛情によって、環境は支えられています。

ひとつひとつの草花におかれましても、大切にしてくださいね。

そしてまた、園の行事では、時に数千人という関係者が、この静かなる街の一角を訪れます。トラブルや苦言なども極めて少なく、とにかくゴミが無い。もちろん、関係者の皆様が拾って下さったり、もしかすると近隣の皆様も拾って下さっているかもしれませんが、巷のニュースで見聞きするような「祭りの後はゴミの山」といった風景とはまるで違う風景が、ここにはあります。

おそらく、近隣の皆様方に際しましては、人通りや音など、必ずやご迷惑をお掛けしている筈だと受け止めているのですが、それをも包み込んでのご理解を頂けている事、感謝に尽きません。

これはもはや、意識レベルの高さでしょう。園や関係者皆様のみならず、地域の全ての誇りだと思えます。と、同時に、それは、未来を担う子ども達の日々、正義感や良心の育みとなる園環境をも支えて下さっているものだ。

心より感謝を申し上げます。

平成 28 年 9 月吉日

 武蔵野の雑木林

むさしの幼稚園のあるこの地は、かつて武蔵野の雑木林と言い、限りなく緑の林と農地が広がる田園情緒豊かな地域でした。

やがて、人口急増期の到来とともに都市化への流れを必要とされた各市はこの緑豊かな林を次々に住宅地化し、特にこの東村山市は交通の利便性も良いことから東京のベッドタウンとして発展して来ました。

 緑の学び舎

創設者、故・野澤真一（現園長の祖父）は、「この素晴らしい自然環境、武蔵野の面影を後世に残そう。未来に向かって育ち行く子ども達へ緑の聖域を作ろう。」それを胸に開園しました。これが、むさしの幼稚園創設の精神であり、名前の由来でもあるのです。この崇高な創設の精神を引き継いだ前園長・野澤秀夫は、本来の幼児のための教育環境はいかにあるべきかを模索し続け、むさしのの森を完成させました。

 そして、現学園長・野澤貴春は、急速な変化を余儀なくされている社会風潮の中で、温故知新を胸に未来を読み取り、幼稚園児減少や保育ニーズの拡大を背景に、より広く幼児教育環境という財産を多くの子ども達へと願い、保育所を設置。互いに認定こども園の認定を取得した学園へと進化させるに至っています。

むさしのの森。子どもにとって本当に何が必要であるか、何が欠かせないのか見つめなおされている時代でもありますが、この開園当初からの精神は何一つ揺らいだ事はありません。「人も動物も植物も与えられた環境により、それなりに育つ」と言われます。恵まれた環境で優しくたくましく育った子ども達、すでにそれは数千人となり、むさしのの森から大きな社会へと羽ばたいていきました。

幼児期は人間形成の基礎作りの時期でもあります。「今」ももちろん大切です。しかし、それらはすべて、子どもたちにとっての、「将来の為」でなければなりません。情操教育を重点とし、恵まれた自然環境の中で、毎日その計り知れない効果に包まれながら、心と体の調和と豊かな感性を養い、たくさんの経験を積み重ねつつ、これから生きていくための土台をつくり、終局的には日本の次代を担う子どもの育成を目指します。

子どもの心の豊かさを芽生えさせてくれる環境、近代設備と自然環境の調和をコンセプトとし、教育環境の継承に邁進し続けていきます。

学園長・野澤貴春